



Chie Hirai | Fortepiano Concert Series | futa-iro Vol.3

演奏とお話し

平井千絵

フォルテピアノ コンサートシリーズ「^{ふたいろ}二色」Vol.3
～二つの調が映す心模様～

chie futa-iro
Hirai Vol.3

2025 年 **10月31日** 金 19:00 開演 (18:00 開場)

 M U S I C A S A (ムジカーザ)

Ticket 全自由席：一般 ¥4,000 / [ペア ¥7,500] / 25 歳以下の学生 ¥3,000
※当日券 ¥4,500 / ペア券は前売りのみ

チケット取り扱い

イープラス [https://eplus.jp/concertseries.vol3/] 

チケットぴあ (Pコード：305-716) [https://w.pia.jp/t/hiraichie2025/] 

ムジカキアラ 03-6431-8186 (平日 10:00~18:00) info@musicachiara.com 

〈B-dur〉

フンメル：ワルツ Op.103-3 変ロ長調

C.P.E. バッハ：

「音の肖像画」より”満足” Wq.117-28、
幻想曲 Wq.61-3 変ロ長調

〈Es-dur〉

モーツァルト：ソナタ 変ホ長調 KV282

ハイドン：ソナタ 変ホ長調 Hob.XVI:49

ベートーヴェン：ソナタ 変ホ長調 Op.31-3 ”狩”

(20:45 終演予定)

《使用予定楽器》

フォルテピアノ after A.Walter (ca.1795)

太田垣 至 製作 (2023 年)

© RINZO



M U S I C A S A
代々木上原駅 徒歩 5 分

[問い合わせ・予約] **ムジカキアラ** 03-6431-8186 (平日 10:00~18:00)
※学生券はムジカキアラのみで取り扱い
※未就学児の入場はご遠慮ください

リサイタルに寄せて

リサイタルシリーズ ^{ふたいろ} 二色も第3回目となりました。

今回も、異なる二つの調の色合いと質感を楽しんでいただこうという趣旨です。

変ロ長調も変ホ長調も、木管楽器の得意な調性で、
鍵盤楽器でも、輪郭線のまろやかな、鷹揚で牧歌的な響きになります。

2歳になる太田垣さん作のワルターに似合う調性を思い浮かべたら、自然にこの二つを選んでいました。

親密なムジカーザのサロンで、似ているけれど違う、繊細な違いを愛でいただけたら嬉しいです。



平井 千絵 Chie Hirai (フォルテピアノ)

車のなかった時代のピアノ、フォルテピアノに魅せられ、専門の奏者として演奏・教育活動を行っている。国内外で15枚のアルバムをリリース、月刊サライ、レコード芸術誌特選盤選出等、時代を超えた選曲と演奏解釈が各方面で高く評価される。

桐朋学園大学ピアノ科卒業後、文化庁在外派遣研修員として、オランダ王立音楽院古楽科（修士）卒業。

2001年ブルージュ国際古楽コンクールフォルテピアノ部門3位、IYAP国際室内楽コンクール1位など国内外のコンクール入賞多数。

チェロの鈴木秀美氏とのアルバムは、2006年文化庁芸術祭優秀賞を受賞。欧州各地の音楽祭にソリスト、室内楽奏者として招かれ、ラジオフランス、オーストリア国営放送等に出演。

東京藝術大学および国立音楽大学 非常勤講師。

長野県佐久市在住。

<https://chiehirai.com/> (平井千絵 Official Web サイト)



X (旧 Twitter)



Instagram

フォルテピアノのこと

ピアノと聞いて思い浮かぶのは、黒くて大きくて重そうな「ピアノ」ではないでしょうか？

モーツァルトやベートーヴェンが活躍した時代には、「ピアノ」は存在しませんでした。代わりに、ピアノのご先祖様である多種多様な「フォルテピアノ」が、作曲家たちに靈感を与え、ろうそくの灯るサロンに集う人々を熱狂させていた・・・。

時代の薫りをまとった古楽器（＝ピリオド楽器）であるフォルテピアノの音色に学生時代に取り憑かれて以来、その幻想的な魅力の源を追い求めています。

繊細、軽妙洒脱、俊敏、ぬくもり、慰め・・・。

車も飛行機もなく、馬車が最も速くて騒々しい乗り物だった、そんな時代に生きた作曲家が託したメッセージを、フォルテピアノを通してお聴きいただけたら幸いです。



フォルテピアノ

after A.Walter (ca.1795)

太田垣 至 製作 (2023年)